

## 児童生徒が使う I C T 研修 4 (2 部)

考えを伝えるために  
～ I C T 機器を使って～

やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使う I C T

児童生徒が使うICT研修4「考えを伝えるために～ICT機器を使って～」を始めます。  
(★)

## 研修のゴール

集めた情報や自分の考えを分かりやすく説明するための工夫を考える。

この研修のゴールは、「集めた情報や自分の考えを分かりやすく説明するための工夫を考える。」です。

(★)

## 伝える際のポイント

### ① 伝える目的と内容、聞き手をしっかり把握する

- ▶ 何を発表するのか                      [テーマ]
- ▶ 誰に発表するのか                      [ターゲット]
- ▶ 何を伝えたいのか                      [目的]
- ▶ どのような資料を使うか [データ]

やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使うICT

考えを伝える際に欠かせない三つのポイントを簡単におさえておきます。  
一つ目は、「伝える目的と内容、聞き手をしっかり把握する」ということです。

- ・何を発表するのかという、テーマ
- ・誰に発表するのかという、ターゲット
- ・何を伝えたいのかという、目的
- ・どのような資料を基にするのかという、データ

このような基本的事項について把握し、伝える活動のイメージを最初にしっかり固めることが大切です。

(★)

## 伝える際のポイント

## ② 場所と時間を把握し、ストーリーを決める

- ▶ どこでどれだけ伝えられるのか
- [場所]

[時間]

- ▶ どのような流れで伝えるか [ストーリー]

(例) ・起 → 承 → 転 → 結  
 ・主題 → 理由 → 結論  
 ・問い → 答え → 理由 → 結論 など

二つ目は、「場所と時間を把握し、ストーリーを決める」ということです。

- ・どこを会場にどれだけの時間伝えられるのかという、場所と時間を把握させます。

→いくら伝えたいことがあっても、時間の長短によって伝える内容を精選する必要があります。限られた時間の中で、聞き手の記憶に残せる内容を盛り込むことが大事です。

・どのような流れで考えを伝えるかという、ストーリーを考えさせます。

→聞き手に対して伝えたい目的をどれだけ印象付けられるかが重要です。そのためには、聞き手を引き寄せるストーリーを組み立てて、理解と納得を促す仕掛けが必要になります。

(★)

## 伝える際のポイント

### ③ 聞き手に伝わるように話し方を工夫する

- ▶ 声の大きさ、抑揚を付けた話し方
- ▶ 原稿を読まず、キーワードを基に語り掛ける
- ▶ 聞き手の反応を見ながら、身振り手振り

三つ目は、「聞き手に伝わるように話し方を工夫する」ということです。声の大きさや抑揚に気を付け、メリハリのある話し方で聞き手の意識を引きつけます。原稿を読むような伝え方をせず、キーワードを基に話せるレベルになるまで自分のレベルに合わせて練習を繰り返させましょう。

聞き手がどのような反応をしているかを見て、身振り手振りを交えながら意識を向けさせることも必要です。

(★)

## 【演習】伝える活動

- I** 1分間で「**学校PR**」をするための資料作成  
※ 2～3人のグループに分かれて 【5分】



タブレット端末、デジカメ、紙、ペンなど



やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使うICT

それでは、伝え方の工夫を考えるために、「学校PR」をテーマに、「1分で伝える活動」を演習してみましょう。

まず、手順を説明します。

タブレットやデジカメ、紙、ペンなどを使って、伝えるための提示資料を写真や動画に撮って作成します。



(※次のスライドに続きます。)

(★)

## 【演習】伝える活動

提示資料 5 枚以内  
(発表時間 1 分)



やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使う I C T

発表時間は1分ですので、提示資料は5枚以内にしましょう。

紙に手書きしたPRを写真に撮ったり、学校を象徴するものを写真や動画に撮ったりして、すぐに発表に使える提示資料を準備しましょう。

資料作成時間は5分です。

(★)

## 【演習】伝える活動

### Ⅱ 発表

※各グループ 1 分間



やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使うICT

伝えるための提示資料が準備できたら、  
各グループの発表をしてもらいます。発表時間は1分です。

それでは、提示資料の作成【5分】から始めてください。

(発表終了後)

(★)



## 伝える際に I C T 機器を使うメリット



やまぐち総合教育支援センター

児童生徒が使う I C T

紙とペンだけでも、伝えるための提示資料は作成できます。

しかし、ICT機器を使うことによって、発表者にとっては、表現の幅が広がるとともに、スライド等の順番を簡単に換えられ、話の筋道を立てやすいと言えます。

一方で、聞き手にとっては、視覚効果もあって内容の理解がしやすく、発表者の伝えたいことを評価しやすくなると言えます。

必要に応じて、伝える活動にICT機器の活用を促していきましょう。

(★)

## 伝える活動における I C T 活用の工夫

- ▶ 見やすい文字の大きさ（1スライド1メッセージ）
- ▶ 統一された配色やレイアウト
- ▶ 写真、動画、グラフ、音声などを効果的に挿入
- ▶ 写真やグラフは大きく表示
- ▶ 長文は避け、キーワードやキーセンテンス

※ unnecessary アニメーション、色の多用をしない

ここで、伝える活動におけるICT活用の工夫についてまとめておきます。

- ・見やすい文字の大きさにし、1画面にたくさんの文字を表示しない(1画面に1メッセージをめざす)
  - ・色や文字位置などのレイアウトに統一感を出し、色を多用しない
  - ・マルチなデータを挿入できるので、写真やグラフなどの視覚的効果を高める資料を効果的に使う
  - ・写真やグラフはできるだけ大きく表示する
  - ・伝えたいことを文章ではなく、キーワードやキーセンテンスで表現する
- その他、アニメーションは特に必要な部分にだけ設定することもポイントの一つです。  
(★)

## まとめ



### 伝える活動

どれだけ伝わったかを重視



I C T機器の活用によって  
聞き手の理解と納得を促す

最後に、

伝える活動では、「どれだけ相手に伝わったか」が問われます。

限られた時間の中で、いかに聞き手の理解と納得が得られるかが重視されるものです。

(★)ICT機器を活用した提示によって、聞き手の理解と納得を促しやすくなることを意識させましょう。

以上で、考えを伝えるために～ICT機器を使って～の研修を終わります。

(※補足資料は、必要に応じて紹介してください。)

(★)

やまぐち総合教育支援センター
児童生徒が使う ICT

**補足**

## 伝えるシートの活用

伝えるシート 〔児童生使用〕

○年 ○組 ○番・氏名 ○○○○

【テーマ】～何を発表するのか～

中学校社会(公民的分野) 「よりよい社会を目指して」

【ターゲット】～誰に発表するのか～

学習発表会などに参加する保護者や地域の人

【目的】～何を伝えたいのか～

「持続可能な社会」の形成がどれほど必要なのかを考えてもらう

【データ】～どのような資料を使うのか～

- ・教科書(地理、歴史、公民)に掲載されている参考となるキーワード
- ・教科書(地理、歴史、公民)に掲載されている各種コラム
- ・日本の人口構造の変化
- ・自分が住む○○市の人口統計
- ・地元新聞に掲載されている地域の環境整備への取組
- ・インターネットで検索できる日本の環境保全への取組
- ・インターネットで検索できる世界の環境保全活動事例

など

※地域住民、日本国民、地球市民のそれぞれの立場で伝えたい資料

〔伝える場所〕 体育館
〔伝える時間〕 15分

〔伝えるストーリー〕～どのような流れで伝えるか～

<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 1 タイトル よりよい社会を目指して </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 4 今後の予測 15年後 50年後 50年後 写真や統計グラフ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 7 地域住民としての現状 地元新聞の環境関連記事 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 10 タイトル よりよい社会を目指して </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 2 現代の環境問題について 環境問題のイメージ写真 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 5 地球市民としての現状 世界の環境保全事例 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 8 持続可能な社会とは 教科書や新聞のコラム </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 11 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 3 なぜ、こんな状況に・・・ 環境変化に関わる因果 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 6 日本国民としての現状 日本の環境保全事例 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 2px;"> 9 未来への期待 現代の問題を未来の知恵に 決意や共通し </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 12 </div>
---	--	--

(※補足資料は、必要に応じて紹介してください。)

子どもたちに伝える活動をさせるには、まずは紙とペンで構想を描いていくことからスタートさせるとよいと言われています。

いきなりICT機器を使ったり、ソフトを立ち上げて提示資料を作成するのではなく、個人やグループで伝える目的や方向性のイメージを可視化することが、伝えるためには必須です。

そのための補助教材として、ここに示すような「伝えるシート」を活用していく方法が考えられます。

例として、中学校社会に関連させた「よりよい社会を目指して～持続可能な社会～」をテーマにした伝える活動づくりを示したものです。

プレゼンテーションソフトで資料作成をする前に、シートに記入することで、伝える活動全体のイメージをとらえやすくなり、追加修正する箇所を子どもが客観的に考えていくことができます。

また、指導者にとっても、伝えるためのアドバイス、評価などを明確に示すことができます。

(★)

12